

生活の中に演劇を

—演劇を楽しむ未来計画 2—



生活の中に演劇を -演劇を楽しむ未来計画2-

趣旨・目的

演劇の感動を全国に

出演者と観客が、同じ時、同じ空間で体験する生（なま）の演劇には、人々が感動を分かち合う場を提供し、感動を分かち合うことで、人と人をゆるやかにつないで活気づける力があります。

日本劇団協議会は、約50劇団の正会員とともに、全国に演劇と感動を届けてきました。

特に2023年度は、四国と沖縄県の2つのエリアで重点的に公演やワークショップを実施しました。



▲2023年度事業より(宮古島市)



▲2023年度事業より(那覇市)

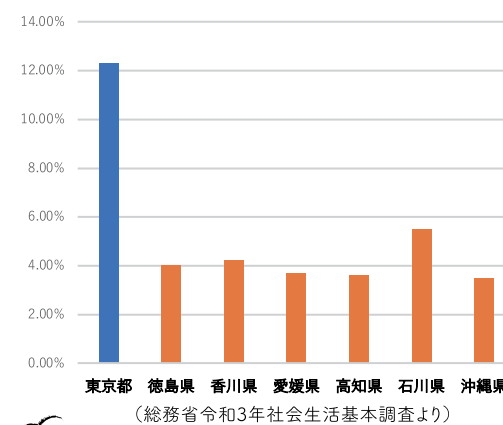
広がる芸術体験の格差

しかしながら、大都市圏とそれ以外の地域では、演劇の感動を体験できる機会に大きな差があります。

2020年からのコロナ禍により、その差はますます広がっています。

また、2024年に地震の被害を受けた石川県能登地域では、甚大な被害のなかで会場となる劇場などの損傷も大きく、予定していた演劇公演の実施も困難になっています。

演劇・舞踊・演芸を生で鑑賞した人の割合
(2021年)



point

東京都に比べて
四国と沖縄県では、生で演劇・舞踊・演芸を鑑賞した人が1/3以下
であることがわかります。
石川県でも特に能登地方は鑑賞することが難しくなっていることが予測されます。

地域に関わらず感動の機会を

それでも、2023年度、本事業で演劇公演を実施した

沖縄県那覇市・名護市・宮古島市の観客アンケートでは、

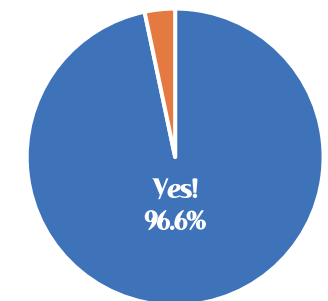
「今後も演劇の公演を鑑賞したいと思いますか？」に

96.6%の方が「はい」と答えています。

point

住んでいる地域に関わらず、
継続して演劇を鑑賞できる環境づくりが必要だとわかりました。

今後も演劇を継続して鑑賞したいですか？



ワークショップが交流の場に

2023年度、愛媛県新居浜市では、声や身体を使ったゲームから初めて、物語づくりに挑戦するワークショップを実施。参加した方の感想も伺いました。

「楽しかった」「笑顔になれた」

「演劇を身近に感じた」

といった感想に続いて、

「知らない人と交流できた」

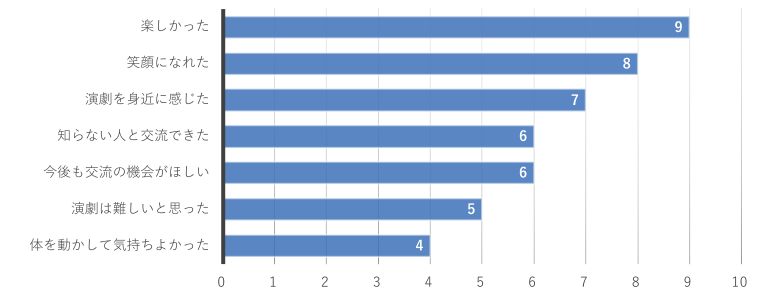
「今後も交流の機会がほしい」

との声がありました。

point

ワークショップには、演劇を身近に感じてもらうとともに、
人と人をつないで、楽しい交流を作り出す力があることがわかります。

ワークショップに参加して感じたことは？



(2023年度新居浜市ワークショップ参加者アンケートより)
(複数回答可)

四国と沖縄県、そして石川県能登半島で継続

2024年度は、以上の課題を解消し、演劇の持つ効用を発揮していくために、2023年度から継続して、

四国と沖縄県の2つのエリアで演劇公演やワークショップを実施し、今年は新たに石川県でも演劇公演を行いました。このパンフレットは、その結果報告です。

住んでいる地域に関わらず、演劇の感動を分かち合える環境をつくっていくために、
みなさまのご理解とご協力を、ぜひ、お願いいたします。

事業計画

演劇の感動の輪を広げていく

この事業では、みなさんが住んでいる身近な会場で演劇作品を鑑賞し、感動を分かち合うのはもちろん、作品の内容や出演する俳優に親しむためのプレイベント、表現することの楽しさを体験するワークショップなどをあわせて実施することで、今まで演劇に縁がなかった方々にも興味をもってもらえる土壌をつくります。

感動を支えるネットワークづくり

劇場と劇団があれば演劇が成り立つわけではありません。演劇は観客のみならず、はじめて成立するものです。演劇の感動をつくるために必要なのは、感動の輪を一緒に広げてくださる、それぞれの地域のみなさま方です。そんな協力者、応援団のネットワークをこの事業を通してつくっていきたいと考えています。

鑑賞や体験を通して地域の課題と向き合う

演劇は、戯曲や俳優の演技だけでなく、舞台美術や音楽、衣裳、照明など、いろいろな専門家の力を合わせて創られる総合芸術です。そこでいちばん大切なのがコミュニケーションの力。コロナ禍で広がってしまった人と人、地域と地域の距離をつなぎなおしたり、大切な戦争体験の記憶を世代間で伝えていくことなど、各地域のさまざまな課題に、演劇がもつ伝える力、コミュニケーション力を役立てていきたいと考えています。

01 四国

テーマ：拠点と拠点、人と人をつなぐ



愛媛県

地図番号	開催形態	開催地域	タイトル	講師・出演	日程
1	ワークショップ	内子町	四国をつなぐ演劇ワークショップ	坊っちゃん劇場	8/20(火)
2	ワークショップ	宇和島市	ココロをひらくワークショップ	坊っちゃん劇場	9/27(金)
3	ワークショップ	八幡浜市	遊んで、遊んで、そして遊んで発見！（小学生～高校生）	イツフォーリーズ	10/27(日)
3	ワークショップ	八幡浜市	自分の好きなものを活かして（高校生以上）	イツフォーリーズ	10/27(日)
★	ミュージカル公演	八幡浜市	おれたちは天使じゃない	イツフォーリーズ	10/28(月)
4	ワークショップ	新居浜市	鴻上尚史ワークショップ	サードステージ	11/27(水)
4	講演会	新居浜市	君はどう生きるか（中学生対象）	サードステージ	11/28(木)

香川県・徳島県

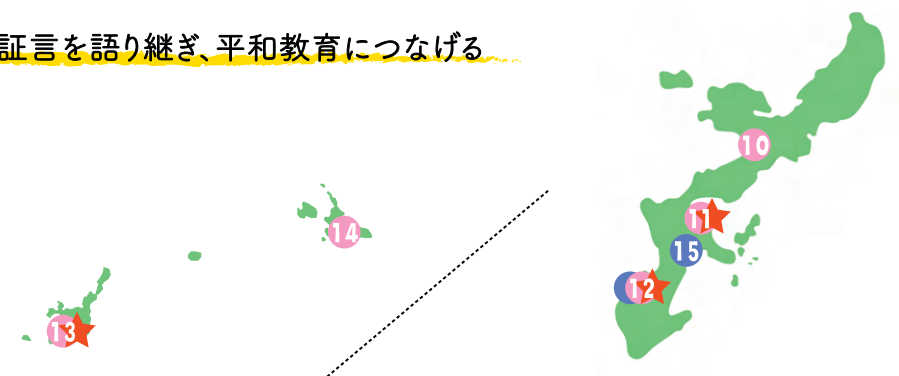
地図番号	開催形態	開催地域	タイトル	講師・出演	日程
5	ワークショップ	徳島県阿南市	四国をつなぐ演劇ワークショップ	坊っちゃん劇場	9/7(土)
6	ワークショップ	徳島県藍住町	四国をつなぐ演劇ワークショップ	坊っちゃん劇場	9/8(日)
7	トーク&ライブ	香川県丸亀市	いずみたくとミュージカル	イツフォーリーズ	9/29(日)
8	ワークショップ	香川県多度津町	ココロをひらくワークショップ	坊っちゃん劇場 イツフォーリーズ	10/26(土)
★	ミュージカル公演	香川県多度津町	おれたちは天使じゃない	イツフォーリーズ	11/24(日)

高知県

9	ワークショップ	四万十市	ココロをひらくワークショップ	坊っちゃん劇場 イツフォーリーズ	9/28(土)
9	トーク&ライブ	四万十市	いずみたくとミュージカル	イツフォーリーズ	9/28(土)
★	ミュージカル公演	四万十市	おれたちは天使じゃない	イツフォーリーズ	10/29(火)

02 沖縄

テーマ：戦争証言を語り継ぎ、平和教育につなげる



10	ワークショップ	名護市	演劇を使ったコミュニケーション・ワークショップ	TEAM SPOT JUMBLE	10/5(土)
11	ワークショップ	うるま市	演劇を使ったコミュニケーション・ワークショップ	TEAM SPOT JUMBLE	10/9(水)
12	ワークショップ	那覇市	演劇を使った平和を考えるワークショップ	TEAM SPOT JUMBLE	10/12(土)
13	ワークショップ	石垣市	プロの俳優による『伝える』ためのワークショップ	青年劇場	10/19(土)、 20(日)
14	ワークショップ	宮古島市	表現ってなんだろう？演劇ワークショップ	TEAM SPOT JUMBLE	10/27(日)
12	上映会&トークショー	那覇市	佐々木愛と共に、映画『沖縄』を観る！舞台を語る！	文化座	11/9(土)
15	上映会&トークショー	沖縄市	佐々木愛と共に、映画『沖縄』を観る！舞台を語る！	文化座	11/10(日)
★	演劇公演	石垣市	あの夏の絵	青年劇場	11/13(水)、 14(木)、16(土)
★	演劇公演	那覇市	しゃぼん玉	文化座	12/5(木)、 6(金)
★	演劇公演	うるま市	しゃぼん玉	文化座	12/8(日)

03 石川

テーマ：被災地に寄り添おう



「行きたい場所をどうぞ」
(左から)原田真衣、竹森琴美、岡本有紀、武智香織 (撮影＝鈴木ヨシアキ)

★	演劇公演	能登町	行きたい場所をどうぞ	青年劇場	6/4(火)
---	------	-----	------------	------	--------

生活の中に演劇を -演劇を楽しむ未来計画2-

実施報告

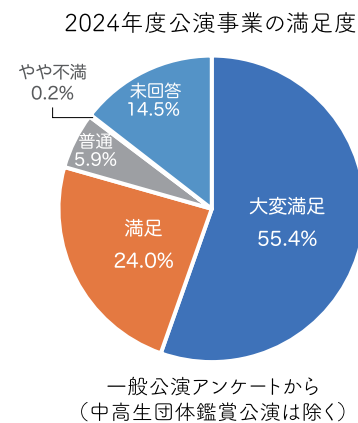
演劇・ミュージカル公演

イツフォーリーズ公演「おれたちは天使じゃない」、
青年劇場「行きたい場所をどうぞ」「あの夏の絵」、
文化座「しゃぼん玉」を上演しました。（p3~4参照）

Q. 作品への満足度は？

約80%（大変満足＋満足）のお客様に、
公演内容に対してご満足いただくことができました！

いただいたご意見・感想



笑いあり、涙あり、生歌、生演奏
全てに感動しました！（四万十公演）

なぜか涙が出ました。なぜだろう？
（四万十公演）

終演後の座談会で話した役者さんの
雰囲気と演技中の雰囲気が全然違って、
役に入り込んでいるのがとてもすごいと
思いました。（石垣公演 中学生）

舞台においてある椅子だけで
いろんな工夫を組み合わせ
シーンを作っていたのがすごかった。
（石垣公演 中学生）

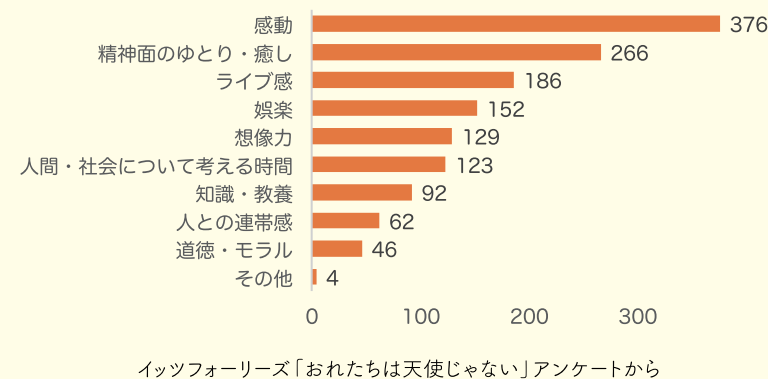
（舞台上で実際に）絵をかいていなくても、
どんな絵なのかを想像できるくらい表現力
があった。（石垣公演 中学生）

歌、ダンス、芝居で、
豊かに表現されている心情や心の動き、
とてもすばらしくひきこまれました。
（多度津公演）

Q. 観劇することで何が得られますか？

観劇されるみなさんは、生の舞台から「感動」とともに、
「精神面のゆとり・癒し」が得られると考えていることがわかります。
また、沖縄県で上演した「あの夏の絵」「しゃぼん玉」のアンケートでは、
「人間・社会について考える時間」が上位に入っていました。

いただいたご意見・感想

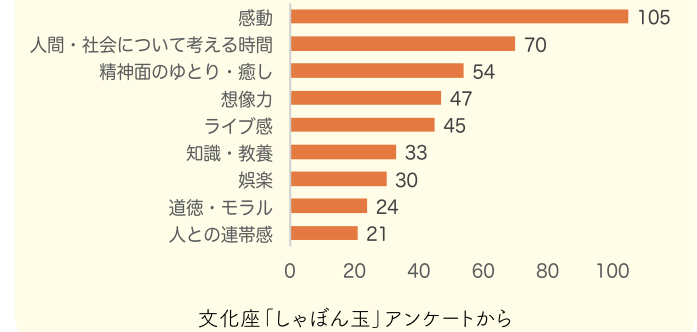
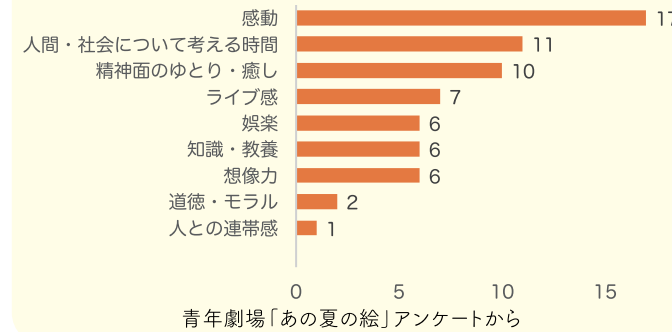


今夜は眠れそうもない。
またの機会を楽しみに長生きしなくては…。
今晚のミュージカル、
長命の薬になりました。（八幡浜公演）

胸に迫るような感動をいただきました。
同時に、自身の凝り固まっていた心に気がつきました。
（四万十公演）

このような題材で演じることで、たくさんの
若い人が関心を持ってくれると思います。
ひとつひとつの言葉がしっかり残りました。
とてもいい内容でした。（石垣公演）

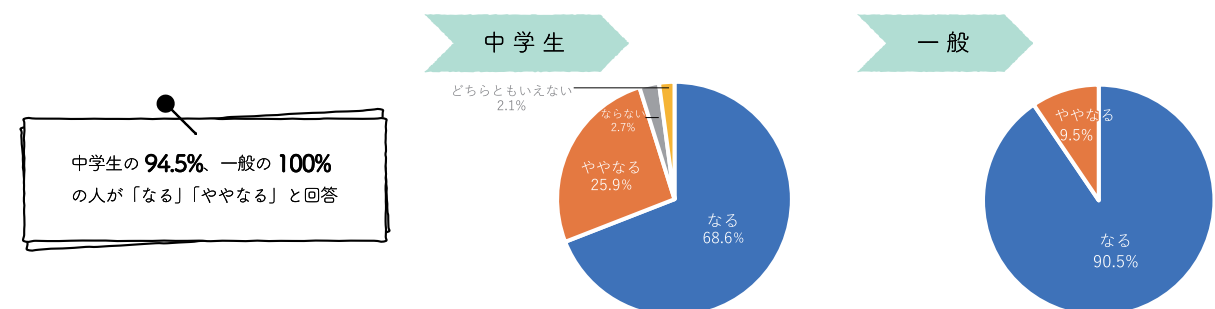
地域と人のつながり、あたたかさを感じた。
（うるま公演）



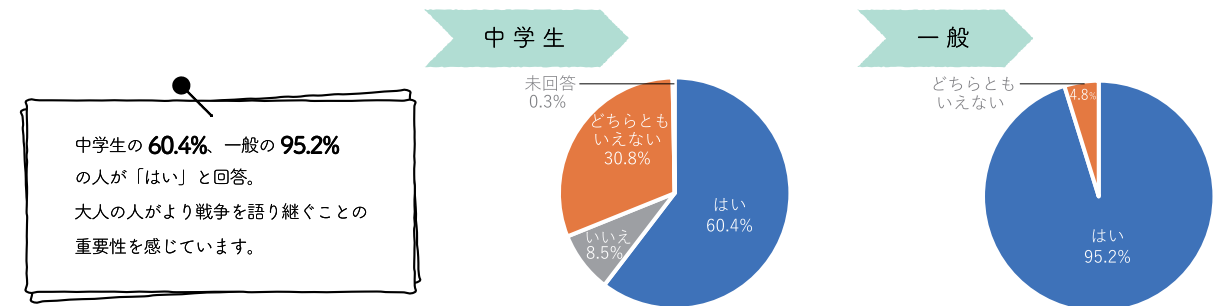
Q. 戦争証言を演劇にすることで平和教育になると感じますか？

沖縄県石垣市では、原爆被爆体験を題材にした青年劇場「あの夏の絵」を上演し、一般公演1回のほか、
中学生団体鑑賞公演を2回実施しました。以下のアンケート結果となりました。

戦争証言を演劇にすることで平和教育になると感じますか？



今後も戦争を語り継ぐ作品を鑑賞したいと思いますか？



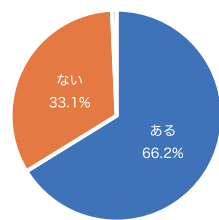
いただいたご意見・感想

この作品は、戦争のことや、被爆者の方の話をすると
いうとても繊細で悲しい内容だけど、役者さんの魅力あ
る演技や演出がすばらしくて見入ってしまうような作品
でした。この演劇を見ることで、石垣のことや沖縄戦以
外の、広島、原爆のことを学ぶことができるし、戦争に
ついてのそれぞれの考え方、見方が学べて、家族や
友達にすすめたくなりました。
（石垣公演 中学生）

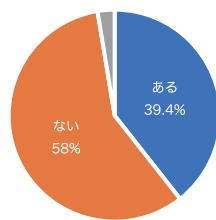
この演劇を見て、振り返ってみると、「知る」とこと、
知って「受け入れる」とことはとても大切なことだ。
戦争だけに当てはまらず、他の分野でもそうだと思う。
だから私は、これから、知ること、受け入れることで、
ナナさんやメグミさんが被ばくの絵をかいたように、
沢山の人に、色々なことを発信していきたい。
（石垣公演 中学生）

Q. 生活圏内で演劇・ミュージカルの鑑賞機会はありますか？

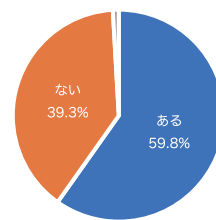
県庁所在地でもある那覇市では、「ある」が75%という高い割合でしたが、地域によって生活圏内で観劇する機会には開きがあることがわかりました。



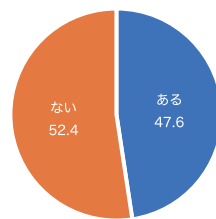
愛媛県八幡浜市



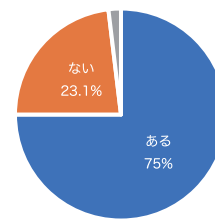
高知県四万十市



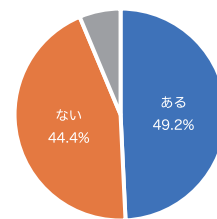
香川県多度津町



沖縄県石垣市



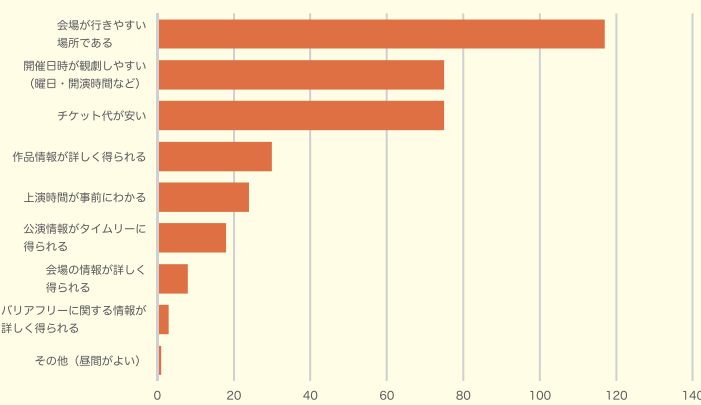
沖縄県那覇市



沖縄県うるま市

一方、「友人・知人・家族を観劇に誘うとき、どのようなことがあったら誘いやすいですか」という質問に対しては、なんと全地域で「**会場が行きやすい場所である**」ということがあげられました。チケット代の高低や開催日時よりも、**地元で観劇したい**という願いが読み取れます。

友人・知人・家族を観劇に誘うとき、どのようなことがあったら誘いやすいですか？＜八幡浜市の例＞



Q. 観劇体験は、子どもたちの豊かな心を育むことにつながりますか？

四国、沖縄の公演では、地元企業の方々から、子どもたちの観劇体験へご支援をいただくことができました。終演後のアンケートでは、この問いに**回答いただいたすべての方が、「はい」と答えてくれました。**



八幡浜市の公演では、子どもたちが舞台仕込(準備)の様子を見学させてもらいました！

≡ 四万十公演で、地元企業のご支援により観劇した子どもの感想より ≡

私は歌を歌ったり、聞いたりするのがとても好きなので、歌っているミュージカル女優さんは、私のあこがれです。だから、私もミュージカル女優になりたいと思いました。

僕はミュージカルを初めて見ました。演技も音楽も生演奏だったので、少しおどろきました。全員、演技力はとうぜんとして、歌唱力も高かったので、すごいなと思いました。帰りにキャストの人達が見送りをしてくれて、握手もしてくれました。舞台上に立っている時と変わって、優しい笑顔だったので、切り替えがはやいなと思いました。ふだん見ることのない貴重な体験となりました。またこういう機会があったら見にいけたらいいなと思います。

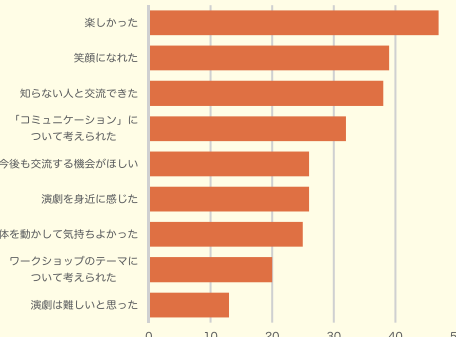
ワークショップ

この事業では、公演やそれに伴うプレイベントのほか、四国では坊っちゃん劇場やイツフォーリーズ、サードステージによる、沖縄ではTEAM SPOT JUNBLEや青年劇場による演劇やミュージカルを体験したり、コミュニケーションの大切さ、おもしろさについて体験するワークショップを実施しました。(p3~4参照)

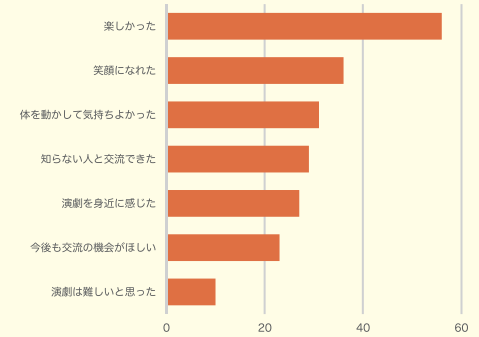
Q. ワークショップに参加して感じたことは？

昨年度に引き続き、「楽しかった」「笑顔になれた」と同様に、「知らない人と交流できた」「今後も交流の機会がほしい」といった感想をいただきました。

ワークショップに参加して感じたことは？＜沖縄＞



ワークショップに参加して感じたことは？＜四国＞



≡ いただいたご意見・感想 ≡

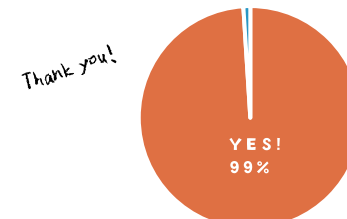
お年寄りも、体を動かし、口を動かし、声を出す、笑う事は、ボケ防止などにも良いし、子どもと大人との交流って最近減っているので、お互いにも良いと思う。

終わったあと、とても清々しい自分におどろきました。短時間なのに参加者みんなが一体になってて、言葉じゃないコミュニケーションの素晴らしさを感じました。

はじめは知らない人がいて緊張したけど、演劇を通して緊張がとけ、最後には楽しむことができた。

普段、お仕事で演技をしている方たちと一緒に演劇や平和について考えることは、今までにない経験でたのしかったです。

Q. 今後、演劇やミュージカルをみてみたいですか？



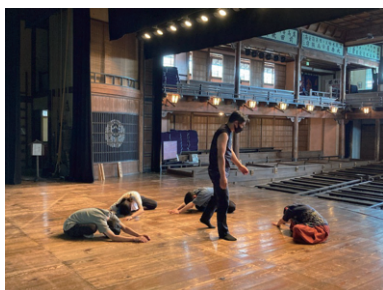
ワークショップに参加した**99%以上の人が、今後演劇やミュージカルをみてみたい**と回答。ワークショップでの交流や表現の体験が、観劇への行動につながっていくだろうということが予測されます。

ワークショップも、演劇やミュージカルの鑑賞も、同じとき、同じ場所で、感動や体験をみんなで共有するものです。ワークショップと公演、それぞれがもつ、人と人をつなげる力、共感する力、想像する力を活かしながら、生活の中で演劇が息づく環境づくりを地域のみなさまと協働しながら、これからも進めていきたいと思ひます。

1

愛媛県内子町

「四国をつなぐ演劇ワークショップ」
 日程:8月20日(火) 会場:内子座
 参加者:3名(+見学者1名)
 進行役:中村茂昭、土井直美



ワークショップの会場は、
1916年に建てられた
伝統的な芝居小屋「内子座」!

坊っちゃん劇場

四国・瀬戸内の歴史や伝統文化、偉人を舞台芸術で表現する、
愛媛県東温市の劇場。
アウトリーチ事業部は、「地域に根ざした演劇文化を!」をモットーに、
出張ミュージカル公演、各種イベント出演、司会、講演・講話、
メディア活動、演劇・ダンス・ミュージカルワークショップ、
市民ミュージカルプロデュース、特別支援学校でのミュージカル制作
など、多岐にわたる活動を展開。
公益社団法人日本劇団協議会正会員。

2

愛媛県宇和島市

「ココロをひらくワークショップ」
 日程:9月27日(金)
 会場:南予文化会館
 参加者:15名(+見学者1名)
 進行役:中村茂昭、土井直美
 協働団体:
 NANBUN舞台アカデミー、
 南予で演劇を観る会



5

徳島県阿南市

「四国をつなぐ演劇ワークショップ」
 日程:9月7日(土)
 会場:阿南市文化会館夢ホール
 参加者:17名(+見学者6名)
 進行役:中村茂昭、高橋真冬(UZU ARTS)、
 土井直美
 協働団体:劇団夢創



6

徳島県藍住町

「四国をつなぐ演劇ワークショップ」
 日程:9月8日(日) 会場:藍住町総合文化ホール
 参加者:8名
 進行役:中村茂昭、和田一詩(UZU ARTS)
 高橋真冬(UZU ARTS)、土井直美
 協働団体:UZU ARTS、モリーズ



9

高知県四万十市

「ココロをひらくワークショップ」
 日程:9月28日(土) 会場:四万十市総合文化センターしまとびあ
 参加者:22名
 進行役:中村茂昭、大川永(イツフォーリーズ)、土井直美
 協働団体:高知県立中村高等学校ダンス部、演劇部



相手の身体の状態を想像し、
感じながら、
無理な力をかけないように、
お互い気持ちよくストレッチ♪

8

香川県多度津町

「ココロをひらくワークショップ」
 日程:10月26日(土)
 会場:多度津町民会館サクラートだつ
 参加者:9名(+見学者2名)
 進行役:明羽美姫(イツフォーリーズ)、
 中村茂昭、土井直美
 協働団体:
 大手前高松高等学校・演劇部

多度津町で参加した
演劇部の高校生より

今回、ワークショップに参加して、やっぱりプロの方は、声が届くし、動けるし、
歌の世界に入る切り替えも、すごいと思いました。
私はミュージカルが好きなんだと再確認しました。
明羽さんや中村さんのように職業に
するのには難しいかもしれないけど、
大学に進学しても続けたいと思います。

※地名の数字は、P3~4の地図内の番号に対応しています。

ワークショップの内容と成果

- * 進行役の中村さんの軽妙なトーク、明快な解説のもと、参加者が心身を開放して仲良くなるアイスブレイクや、身体や声を使ったゲームからはじまりました。
- * そして、八幡浜市、四万十市、多度津町で上演するミュージカル「おれたちは天使じゃない」に向けて、作曲者いずみたくの代表曲のひとつ「手のひらを太陽に」や、劇中歌「翼のない天使」を題材に、踊りと歌をつけてミュージカルづくりを体験しました。
- * 踊りの振り付けも参加者と進行役が協力しあい、自らアイデアを出し合って、みんなで歌と踊りを作り上げた時には、どの会場でも達成感と連帯感をもつことができました。

サードステージ

サードステージ

作家・演出家の鴻上尚史による演劇公演やワークショップ等の企画・運営を行うほか、俳優の育成にも力を入れている。公益社団法人日本劇団協議会正会員。

4 4

愛媛県新居浜市

「鴻上尚史ワークショップ」

より良いコミュニケーションの取り方を教えます」
 日程:11月27日(水)
 会場:あかがねミュージアム
 参加者:28名(+見学者2名)

講演会「君はどう生きるか」

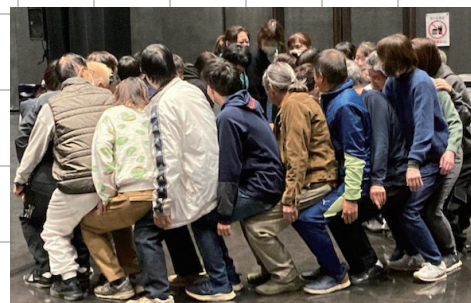
日程:11月28日(木)
 会場:新居浜市立中萩中学校体育館
 参加者:450名(+見学者50名)



進行役・講師:鴻上尚史

協働団体:あかがねミュージアムサポータークラブ

協賛:医療法人たなか内科クリニック 後援:新居浜市教育委員会



みんなで一緒に空気椅子、
パートナーのからだで彫刻づくり。
他の人の作品と比べてみる。

ワークショップ参加者の声

- ・演劇を身近に感じた!
- ・楽しかった!
- ・知らない人と交流できた!
- ・世界観がひろがり自分を見直せた!
- ・楽しみながら学べた!

ワークショップ・講演会の内容と成果

- ・ワークショップには10~60代まで幅広い年代の方々が参加。様々な角度から、「伝えること」について講義と実際の体験を行いました。それらを通して、現代社会にあっては、役を演じる俳優と同様に「エンパシー」(相手の立場にたてる能力)が大切であることを学びました。
- ・講演会は鴻上氏の母校の現役中学生を対象に実施。「シンデレラの継母はなぜシンデレラをいじめたのか」「桃太郎の犬はなぜきび団子1つで命がけの鬼との戦いに参加したのか」などの問いを中学生に自分ごととして考え、発表してもらいました。社会にでたら正解のない問題に遭遇する、その際には自分の頭で考え、相手の立場に立って考えられる力が重要になるということについて、ともに考えました。

9

高知県四万十市

トーク&ライブ「いずみたくとミュージカル」
 日程：9月28日(土)
 会場：四万十市総合文化センターしまんとびあ
 参加者：29名
 講師・出演：大川永、土屋友紀子
 協働団体：しまんと実行委員会



what's?

ミュージカルカンパニー イッツフォーリーズ
 作曲家・故いずみたくが1977年にオリジナル・ミュージカルを上演する専門劇団として旗揚げ(当時「いずみたくフォーリーズ」、現在改称)。東京麻布十番にて小劇場アトリエフォンテーヌを拠点に多くの作品を生み出したが、2012年に台東区蔵前に拠点を移転。彼の没後も遺志を継ぎ、子供から大人まで幅広い世代に向けて公演・ワークショップを活動中。公益社団法人日本劇団協議会正会員。

7

香川県丸亀市

トーク&ライブ「いずみたくとミュージカル」
 日程：9月29日(日)
 会場：丸亀市市民交流活動センター マルタス
 参加者：44名
 講師・出演：大川永、土屋友紀子
 協働団体：多度津実行委員会

トーク & ライブの内容と成果

いずみたくのミュージカル人生と、本事業で上演する「おれたちは天使じゃない」の制作過程をプロデューサーが紹介。あわせて、実際にいずみたく楽曲14曲を俳優が披露。いずみたくに親しんでいる世代から、彼については知らなかったが歌は知っている、という幅広い年代に楽しんでもらうとともに、上演にむけての興味と期待感を盛り上げることができました。

3

愛媛県八幡浜市

「遊んで、遊んで、そして遊んで発見！」
 (小学生～高校生対象)
 日程：10月27日(日)
 会場：八幡浜市文化会館ゆめみかん
 参加者：15名
 進行役：鈴木彩子、明羽美姫
 協働団体：南予で演劇を観る会



3

愛媛県八幡浜市

「自分の好きなものを活かして」(高校生以上対象)
 日程：10月27日(日)
 会場：八幡浜市文化会館ゆめみかん
 参加者：12名
 進行役：鈴木彩子、明羽美姫
 協働団体：南予で演劇を観る会



ワークショップの内容と成果

- ・見知った人も初めましての人もいるので、まずは打ち解けるために自己紹介や簡単なゲームから始まりました。
- ・心身が開放されてきたらグループワークへ。お題にだされた昔話(浦島太郎など)の1シーンをみんなで協力して表現しました。
- ・そしていよいよミュージカル。小学生～高校生の回では「手のひらに太陽を」、おとなの回では「見上げてごらん夜の星を」を題材に振り付けをみんなで考えます。歌も、最初にみんなで歌った時に比べて、この歌は誰に向けてどんな気持ちで歌うだろう、とみんなで考えたあとに歌ったのとは、込められた情感がとても豊かになっていました。
- ・小学生～高校生の回も、おとなの回も、グループにわかれて、歌と踊りがはいった小さなお芝居を作り上げました。このワークショップを通して、表現することの楽しさと、みんなで協力したからこそできた達成感を体感できたようでした。

ミュージカル公演「おれたちは天使じゃない」

脚本／矢代静一 脚本・作詞／藤田敏雄 作詞／山川啓介
 音楽／いずみたく 演出／金澤菜乃英(青年座)
 美術／根来美咲(青年座) 音楽監督／吉田さとり
 振付／スズキ拓朗(CHAiroidPLIN/コト・ルズ)・明羽美姫(イツフォーリーズ)
 照明／中川隆一 音響／返町吉保(キャンビット)
 衣裳／天野杏百子 歌唱指導／坂口阿紀 殺陣／梶武志
 出演／横堀悦夫(青年座)、金子由之(昴)、米山実(文化座)、
 吉田雄、大川永、刀根友香、半澤昇 ほか

<作品について>

ある年の大晦日。雪深い山荘に三人の脱獄囚が逃げ込んでくる。そこで心ならずも心中しようとしていた父娘を助けてしまうことから、三人は愛情と裏切り、真実と嘘が絡まった人間関係に巻き込まれていく。三人ははたして逃げおおせることができるのか。大晦日の夜の心温まる奇跡を描く、1200回以上の上演回数を重ねてきたイツフォーリーズの代表作。



ミュージカル「おれたちは天使じゃない」
 センター 刀根友香、コロスほか (撮影=日高仁)

★

愛媛県八幡浜市

日程：10月28日(月) 18:30開演
 会場：八幡浜市文化会館ゆめみかん 鑑賞者数：246名
 協働団体：南予で演劇を観る会
 後援：愛媛県、八幡浜市、八幡浜市教育委員会、
 八幡浜市文化協会、愛媛新聞社、八西CATV
 協力：八幡浜ミュージカル劇団、NPO法人やわたはま
 銀座バスケット、喫茶モンブラン、スペースゆう、
 Music café京、ブティックアルファルファ、Chez利太郎

★

香川県多度津町

日程：11月24日(日) 13:30開演
 会場：多度津町民会館サクラートたどつ 鑑賞者数：128名
 協働団体：「おれたちは天使じゃない」多度津実行委員会
 後援：香川県、香川県教育委員会、多度津町、
 多度津町教育委員会、丸亀市、丸亀市教育委員会

★

高知県四万十市

日程：10月29日(火) 18:30開演
 会場：四万十市総合文化センターしまんとびあ
 鑑賞者数：401名
 協働団体：「おれたちは天使じゃない」しまんと実行委員会
 後援：四万十市教育委員会、高知新聞社、RKC高知放送



開演の1時間前には
 長蛇の列が!

鑑賞者のアンケートから

立派なホールが出て、
 こんな田舎で観られるようになった(四万十)

コロナ禍がおりこんな劇を生でみるのが
 うれしくてうれしくて(四万十)

素敵な時間をありがとう。
 人が作り出すエネルギーを感じました(多度津)

南予に本格的なミュージカルが
 来てくれた!!ありがとう!(八幡浜)

芝居もうまく、見応えがありました。
 ライブはやっぱり楽しめます(多度津)

<四国の子どもたちの鑑賞のために協賛して下さった企業>

今治造船/EDIONイマイデンキ/香川県農業協同組合/カネシロ/四万十市金融協会(四国銀行、高知銀行、
 愛媛銀行、幡多信用金庫、高知信用金庫、高知県農業協同組合、四国労働金庫)/高田商店/西宇和農業協同組合/
 ニノズコンフィチュール/松浦建設/マリンランドひらばえ/山倉建設/やわたはま銀座バスケット

証言～よかったこと・苦労したこと～

四国の各地で演劇の感動を分かち合える環境をつくっていくために、そしてその環境を点から面につなげて継続させていくために、多くの皆様と協働しました。ここでは3人の方からご寄稿いただきました。

愛媛県 八幡浜市

あれはいったい何？ そう、ミュージカルです！

特定非営利活動法人やわたはま銀座バスケット
上田 日登美

八幡浜市の子育て支援拠点に通う小学生に『是非生きた体験を』と希望し、地元開催に関わらせて頂きました。2時間20分の上演、概ねが初体験の舞台鑑賞を、さて、子どもたちがどんな様子で臨むのか。蓋を開けると、前日の演劇ワークショップでは目を輝かせ、当日は緊張の面持ちでホール入りすると、開演から引き込まれ、最後は乗り出すようにして鑑賞して「楽しかったあ!!」の大合唱（良かった）。保護者からも「感動しました」と。

苦労は市民への周知。どんなものかわからないという体験不足の影響を感じましたが、ご来場の80代から「誘ってもらてよかった!すごい良かった。ところであれはいったい何？」で回収された感じ。「そう!ミュージカルです!(笑)」。

幾つになっても新たな体験は特別に素晴らしい!

八幡浜市からは大城市長にも鑑賞いただき、近隣や松山からも足をお運び頂いて、南予での「おれたちは天使じゃない」は、「また観たい!」の後日連絡に繋がる大好評。貴重な機会を本当にありがとうございました。是非また来てください。皆でお待ちしています!



終演後は出演者がお見送り♪



ワークショップ後の集合写真
(後列中央が上田日登美さん)

高知県 四万十市

32年前の感激を、今、共に

「おれたちは天使じゃない」しまんと実行委員会 会長
本田 三津代

今回、32年前「おれたちは天使じゃない」を当時の幡多市民劇場で観て感激した数名の方から新たなメンバーへと輪が広がり、「しまんと実行委員会」が立ち上がりました。4月に新ホール「しまんとぴあ」が開館したことも力となりました。

ワークショップに高校生が多く参加し、人と人との、新たな心や体のつながり方を体験したことは、感動を与え、彼らの今後につながっていくと思います。

来場者からは、初めて観た、感動した、元気をもらった、生バンド・歌・ダンスに感動した、地元で観られて嬉しい、また観たいなどの声が沢山ありました。

協賛企業からも、良い取り組みとの賛同の言葉を頂きました。

委員は、初めての事であり、苦労もありましたが、多くの方に観て欲しいとの思いで出来る事を精一杯やり、当日沢山の方と感動を共にすることができ、元気を貰い、とても楽しい取り組みでした。

子供から大人まで舞台を楽しめる場が繋がってほしいと願っています。



実行委員のみなさんによる
手作りの入場ゲート

香川県 多度津町

チケット販売に苦労、でも演劇の魅力を知る人の裾野が広がった

「おれたちは天使じゃない」多度津公演 実行委員長
宮本 修

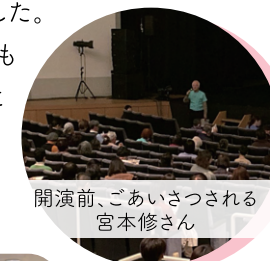
香川県の中部・西部地方は多度津町で劇団四季の子供向け演劇が年に一度上演される以外、プロの劇団は来ない。2026年秋に丸亀市民会館が完成するのでこの機に丸亀市民劇場を立ち上げようと計画している香川市民劇場が、それへのステップとして「おれたちは天使じゃない」多度津公演実行委員会を結成した。県市町の後援を得てポスターやチラシを小中学校、公民館などへ掲示配布、企業への協賛も依頼した。プロの演劇を見たいとの希望は多かった。が、「金額が高いなあ」とチケット販売に苦労した。

演劇の感想は「良かった」「感動した」「想像以上に本格的」「このような機会が増えてほしい」等好評で「初めて演劇を観た」もあった。

香川市民劇場へ加入した人がいた。

実行委員は「苦労したがやって良かった」と感じている。

演劇の魅力を知る人の裾野が広がり丸亀市民劇場の実現に弾みがついた。



開演前、ごあいさつされる
宮本修さん



実行委員、ボランティアで
お客様を出迎え♪

コラム：旅する立て看板

イツフォーリーズ公演「おれたちは天使じゃない」では、子ども料金を少しでも安く設定するために、協賛して下さる民間企業等を募ることになりました。各地域の実行委員の方々と日本劇団協議会がお願いに回りましたが、「子どもたちに生の舞台を届けるためなら」と多くの企業が快く協賛してくださいました。普通なら協賛社名を紙で会場に掲示するところですが、そこで手を挙げてくれたのが愛媛県立八幡浜工業高等学校美術部の河野先生と生徒たち。「おれたちは天使じゃない」の作品観にあった、かわいくて美しい協賛社紹介ボード（立て看板）を作ってくれたのです。八幡浜公演で初お目見えしたこのボードは、その後、四万十市、多度津町と、劇団と一緒にトラックに乗って旅したのです。



四万十市総合文化センターしまんとぴあでも、いちばん目立つ場所に設置された立て看板!



八幡浜市文化会館ゆめみかんで、
実行委員のみなさんと、
立て看板製作を生徒とともに
進めてくださった河野先生(右から2人目)

10

名護市

「演劇を使った

コミュニケーション・ワークショップ」

日程：10月5日(土) 会場：名護中央公民館

参加者：14名

進行役：与那嶺圭一、比嘉恭平、蔵元利貴

コーディネーター：喜舎場梓

協働団体：名護市子ども会育成連絡協議会

名護市ジュニアリーダークラブ、名護市児童劇団

からだ全体を使った
じゃんけん♪

12

那覇市

「演劇を使った平和を考えるワークショップ」

日程：10月12日(土) 会場：対馬丸記念館

参加者：15名(＋見学者8名)

進行役：与那嶺圭一、比嘉恭平、蔵元利貴

コーディネーター：喜舎場梓

協働団体：対馬丸記念館



ワークショップの内容と成果

- ・子ども対象(名護市)、おとな対象(うるま市)、戦争体験をいかに継承していくか考えるワークショップ(那覇市)、児童劇団・社会人劇団で活動している人と経験が少ない人を一緒に対象にしたワークショップ(宮古島市)など多岐にわたるワークショップを、地元協働団体と事前に打ち合わせを重ね、参加者の特性、実施目的、各地域性を考えながら実施しました。
- ・特に那覇市・対馬丸記念館では、証言から沖縄戦を学び、ひとつのシーンを演じることで、戦争体験を自分ごととしてとらえ、協力して創作するなかで平和への思いを共有することができました。

参加者の声

最初楽しくジェスチャーゲームをして、その後に戦時中を演じたので、今が如何に平和か、感じることができました。

親子共々楽しめました、ありがとうございます。娘が引込み思案なので、いろいろな表現を経験出来たのは素敵な時間でした。

初めての人と協力してお題にそって演劇したことで、初めての人と楽しめたので良かったです。また、ワークショップに参加したいです。

what's?

TEAM SPOT JUMBLE

2006年に津波信一が主宰して設立された沖縄県を拠点とする劇団。通称「TSJ」。アクションなどのエンターテインメント性の高い表現を持ち味とし、沖縄の文化や歴史を題材にした作品も多く手がけています。地域に根ざしたワークショップなどの普及・地域貢献活動も積極的に展開中です。公益社団法人日本劇団協議会正会員。

11

うるま市

「演劇を使ったコミュニケーション・ワークショップ」

日程：10月9日(水) 会場：石川地区公民館

参加者：13名(＋見学者1名)

進行役：与那嶺圭一、比嘉恭平、蔵元利貴

コーディネーター：喜舎場梓

協働団体：一般社団法人りあん

簡単なゲームで大人も
うちとけていきました!

14

宮古島市

「表現ってなんだろう?演劇ワークショップ」

日程：10月27日(日)

会場：宮古島市上野公民館

参加者：36名(＋見学者4名)

進行役：与那嶺圭一、比嘉恭平、

蔵元利貴

コーディネーター：喜舎場梓

協働団体：宮古島市教育委員会、宮古島市文化協会、児童劇団かなやらび、社会人劇団びん座



文化座

what's?

文化座

女優の鈴木光枝、演出家の佐々木隆らにより戦時下の1942年に結成。「その人を知らず」「炎の人——ゴッホ小伝」といった三好十郎作品をはじめ、「荷車の歌」「土」「サンダカン八番娼館」「越後つっし親不知」など、これまで多くの名作を生み出してきました。

現在の代表は佐々木愛。2022年にも、那覇市と名護市で、戦後沖縄で復興に尽くした人々を描いた「命どう宝」を上演し、2000人近くの方が鑑賞。公益社団法人日本劇団協議会正会員。

12-15

沖縄県那覇市・沖縄市

「佐々木愛と共に、

映画『沖縄』を観る!舞台を語る!」

日程：11月9日(土)

会場：沖縄県男女共同参画センター・ていえるホール

参加者：70名

講師：佐々木愛、三上智恵(映画監督)

日程：11月10日(日) 会場：シアタードーナツ 参加者：40名

講師：佐々木愛

聞き手：宮島真一(Vacant Store Pictures/シアタードーナツ)

協働団体：浮島ガーデン、シアタードーナツ、共同映画

シアタードーナツのアットホームな
空気のなかで行われた映画鑑賞後の
佐々木愛さん、宮島真一さんのトーク

演劇公演「しゃぼん玉」

原作／乃南アサ『しゃぼん玉』(新潮文庫刊)

脚本／斉藤祐一 演出／西川信廣

美術／乗峯雅寛 照明／塚本悟 音楽／上田亨

音響／齋藤美佐男 衣裳／岸井克己

擬斗／渥美博 舞台監督／鳴海宏明 制作／中山博実

出演／佐々木愛、藤原章寛、津田二郎、青木和宣、高村尚枝、

小谷佳加、姫地実加、兼元菜見子、萩原佳央里、田中孝征、

深沢樹

<作品について>

「平家と源氏が仲良く暮らしたとき……」という平家祭りの伝説がまことしやかに語り継がれる九州は宮崎、椎葉村。偶然にもこの村に迷い込んだ青年翔人と、老婆スマの奇妙な共同生活が始まった……。

2017年の東京初演から全国122ステージを巡演し、ファイナル公演を沖縄で迎えました。

★

那覇市

日程：12月5日(木)18:30開演／12月6日(金)14:00開演

会場：那覇文化芸術劇場なはーと 小劇場 鑑賞者数：203名

★

うるま市

日程：12月8日(日)14:00開演 会場：きむたかホール 大ホール

鑑賞者数：365名

協働団体：浮島ガーデン(現地コーディネーター：中曽根直子)

協力：文化座後援会

上映会&トークショーの内容と成果

劇映画「沖縄」(第1部のみ)を鑑賞後、対談形式で当時の映画製作秘話から、沖縄の歴史的背景を見直し、改めて戦争について語りました。

いま沖縄が抱えている貧困問題や、少年犯罪数ワーストワンの現状、母子家庭世帯の多さなど、子供たちを取り巻く環境にトークを広げ、あわせて12月に文化座が那覇市、うるま市で上演する『しゃぼん玉』のテーマである「青年の再生ものがたり」への思いを観客と共有しました。



「しゃぼん玉」
左から藤原章寛、佐々木愛
(撮影者 阪本正郁)

鑑賞者のアンケートから

余りにも暗い世相の中で人と人とのコミュニケーション、共生、社会性、生きる希望を感じさせてくれた。(那覇)

子供たちと観劇してよかったです。劇をととして人生をみることができました。(うるま)

<沖縄の若者たちに舞台鑑賞を
ギフトしたいと協賛くださった企業>

Algalex/浮島ガーデン/うむさんラボ/

フリーサイエンス沖縄県特別代理店仲村高子

13

石垣市

「プロの俳優による『伝える』ための
演劇ワークショップ」

日程：10月19日(土)・20日(日)

会場：結い心センター

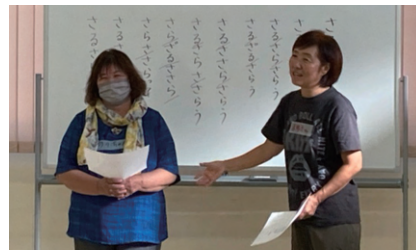
参加者：11名(+見学者1名)

進行役：佐藤尚子、白木匡子、小切伊知子、中谷源

what's?

秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場

1964年、日本演劇のパイオニアである秋田雨雀と土方与志に教えを受けた俳優、演出家8名を中心に結成。劇団性に基づくアンサンブルの重視、アクチュアルな演劇創造を目指し、日本近現代演劇、海外の作品などを意欲的に上演。東京のみならず、全国公演、国際交流、青少年のための公演と幅広く展開。新たな若い才能の発掘と演劇技術の継承、演劇を目指す方の道を拓くことを目的として付属養成所も運営。公益社団法人日本劇団協議会正会員。



ワークショップの内容と成果

- ・15歳から80歳まで幅広い年代の方々が、積極的に参加してくださいました。
- ・声や身体を使ってコミュニケーションを楽しむゲームや詩の朗読などを通して、演劇の楽しさを体験していただくとともに、日常生活のコミュニケーションもより豊かになるようなプログラムを目指しました。
- ・年代を越えて、表現することの多彩さ、演じることのおもしろさや、みんなとのコミュニケーションを楽しんで、交流が深まった2日間となりました。

参加者の声

人見知りをしていけど、2日目は慣れてきてみんなとのコミュニケーションを楽しめた。

夫婦間で一日に何度相手の目を見て会話するのか考えた。今回の経験を活かして日常のコミュニケーションを豊かにしたい。

仕事と家庭の往復だったが、演劇で色々な人と繋がれるのが楽しかった。

演劇公演「あの夏の絵」

作・演出／福山啓子 美術／石井強司

照明／河崎浩 選曲／堀沢広幸

音響効果／石井隆 衣裳／宮岡増枝

演出助手／清原達之 舞台監督／松橋秀幸

製作／広瀬公乃 製作助手／白木匡子

出演／藤井美恵子、広戸聡、永田江里、藤代梓、

傍島ひとみ、津曲海七斗

< 作品について >

被爆から70年たって、記憶を伝え残すために語り始めた被爆者と、それを受けとめ、絵に表現することに挑んだ高校生たちの2015年の物語。

これまでに「翼をください」「真珠の首飾り」「修学旅行」

など6作品を八重山で上演してきた青年劇場が、16年ぶりに公演。



「あの夏の絵」
左手前から藤代梓 永田江里 津曲海七斗 傍島ひとみ 藤井美恵子 広戸聡
(撮影=宿谷誠)

石垣市

日程：11月13日(水)14:10開演

< 中学生団体鑑賞 > 鑑賞者数：中学生505名(石垣市立第二中学校)

日程：11月14日(木)14:15開演

< 中学生団体鑑賞 > 鑑賞者数：中学生477名(石垣市立石垣中学校・石垣市立富野中学校)

日程：11月16日(土)14:00開演

< 一般公演 > 鑑賞者数：一般208名 高校生17名 中学生以下15名

会場：石垣市民会館大ホール

後援：石垣市・石垣市教育委員会・八重山毎日新聞社・八重山日報社・

石垣ケーブルテレビ

FMいしがきサンサンラジオ・南山舎

協力：石垣市文化協会・石垣女性9条の会・子ども演劇やいま浪漫の会・

沖教組八重山支部

一般公演の終演後には、
高校生が被爆された方々から聞き取り
をして、
実際に描いた絵の写真を展示しました



鑑賞者のアンケートから

「今回の演劇を見て、視野が広がったように感じました。(広島弁の)イントネーションや見えないところでの動作などどれをとってもすご良かったです!」

「担任の先生がひめゆり部隊の生き残りでした。語り継ぐ人がいなくなりました」

「私は広島出身で、基町高校の隣、舟入高校で同じく原爆劇を3年間たくさんの場所で活動していました。ご年配の方は涙を流しながら見てくださいました。

県外に出て、原爆について広島県内とあまりにも温度差がある事に驚きました。このように原爆を取り上げ、各地で公演してくださることは広島県人としては大変嬉しく感じます」

出演者と中学生の交流会を実施

中学生団体鑑賞公演の終演後には、出演者との交流会を実施。鑑賞した中学生からは、「自分自身是被爆されていないのに、どうやったらあんな演技ができるんだろう。鳥肌がたちました」や「島に住んでいるので、演劇を観たことがあまりなくて、やっぱり演劇って、生ものなんだと思いました」といった意見が聞かれました。

出演者のひとり、藤井美恵子さんからは、そういった中学生の声に対して、「私は年配者ですが、戦争体験はありません。どれだけ映画や本を参考に、想像力を発揮して、人のことを思うことができるか、ウクライナなど他人事じゃなく、想像力を働かせることができるか。ゴールがない仕事なので毎日毎日奮闘しています」といったお話がありました。



沖縄県には、忘れてはならない戦争の記憶、あわせて大切に育まれ伝えられてきた文化があります。一方で、海を隔てた距離もあり、日本の他地域に比べて特に現代演劇に触れる機会は限られてきました。そんな中で、沖縄に根差した活動を行う劇団、そして沖縄と縁を結んできた劇団が、この事業でも地元の方々と協働しました。ここでは3人の方々からご寄稿いただきました。

沖縄県 那覇市

演劇は、喜怒哀楽や心身の痛みも伴いながら「平和」を考える有用な学び

対馬丸記念館 館長 平良 次子

対馬丸児童合唱団のメンバーと那覇青少年舞台プログラムのメンバーらが参加して行われた演劇ワークショップは、大変短い時間にもかかわらず子どもたちが楽しそうに参加していた。青少年と演劇を行っている方は、この短い時間でどんな風にするのか興味深かったという。指導者たちはあらかじめ流れを作り、何かをさせていくというよりは、その場の参加者たちの意見を取り入れ、そこからざっくばらんにやりたいことを引き出しているような印象で、笑いながらも考えるところがあるというような大変表情のある時間だったと話されていた。

戦争の歴史を自分事として考えることは大変難しい。戦争ということが、自分の日常とかけ離れた場面だけに、知識として捉えたり、感情に落とし込むのは並大抵ではない。しかし「演劇の教育力」という言葉の通り、演劇はセリフを自分の言葉として発し、喜怒哀楽や心身の痛みも伴いながら「平和」を考える有用な学びであると思う。



多くの子どもたちが参加、小作品を創作しました

沖縄県 那覇市・うるま市

沖縄が題材ではないと難しい集客、でも地元企業の協賛で子どもたちに観劇体験を

浮島ガーデン店主 中曽根 直子

< 苦労した点 >

- ・「しゃぼん玉」公演を行うにあたり、その告知のために劇映画「沖縄」の上映会を行ったが、来場者は中高年のみで、若者を集めることができなかった。
- ・沖縄をテーマにした作品でなかったため、興味を喚起するのに大変苦労した。
- また、マスコミ取材がほとんどなかった。(ラジオ出演1件・新聞インタビュー1件のみ)

< 良かった点 >

- ・公演が行われる地域の企業から協賛を得て、小中高・専門・大学生とその引率者を招待することができた。3公演で約100名集客。
- ・無料鑑賞を告知するのに、沖教組・高教組の先生方が動いてくれた。

< 今後の展望 >

- ・沖縄は沖縄をテーマにした作品にしかほぼ興味を示さない地域なので、今後は地域の物語や歴史などを扱ったワークショップを行ってもらえると良い。地元の劇団員もワークに参加し、2年3年とプロジェクトを積み重ね、最終的には成果発表ができると良いのではないかな。



子どもたちの観劇のために地元企業が協賛



劇映画「沖縄」の上映会を終えて、佐々木愛さんを中心に。(前列右が中曽根さん)

沖縄県 石垣市

南の島へ伝わったもの

元石垣市教育長
江川 三津恵

原爆を投下され、かろうじて生き延びた人々は筆舌に尽くしがたい痛苦の中、被差別という過酷な体験に苛まれ続けたのです。この惨劇を忘れてはいけなと被爆者の証言を絵にして残す高校生がいます。その姿に胸を打たれ、希望を見出して、演劇『あの夏の絵』が生まれたのです。残すべきもの、伝えるべきものが点から線、面、そして全国へとまるで光が広がっていくようにこの石垣島にまで届いたのです。迫真の演技、場内にしっかりと届くセリフ、その一つ一つが観る者の心を掴みました。身を乗り出し入るように舞台に集中している中学生のすがたを見ることができ、伝わっていることが実感できました。

折しも日本被団協にノーベル平和賞が授与されるという朗報があり、演劇を観たおとなしい生徒が「ノーベル賞もらってよー!」と教師に明るく声をかけてきたと言います。演劇の芸術性、社会性が島の人々の心を動かし、生き方を考える機会になったことを信じます。



観劇後の交流会で、出演者の言葉に聞き入る中学生

コラム：人と人の関係も、ほどいて結ぶ演劇ワークショップ

うるま市では、児童館や児童デイサービスに勤務するスタッフさんを主な対象に、演劇を使ったコミュニケーションワークショップを行いました。

実施後、深掘りアンケートをしてみると、参加前には、「研修だからやらないといけないと思っていた」「ワークショップに期待していなかった」という思いもあったとのこと。でも始めてみると、「ほかの事業所の方たちや同僚とフラットな気持ちになって参加できた」「同僚の知らなかった一面が見れて、いい意味での驚きがあった」といった感想がきかれました。

仕事とプライベートでは違う顔をしているのは当然ですが、例えば今まで見なかった笑顔を見たり、知らなかった性格を知ること、明日からの仕事の関係性や距離感もかわってくるのではないのでしょうか。また、「ファシリテーター(劇団員の進行役)から自分たちが声をかけられてみて、自分たちが普段からやっている子どもへのポジティブな声かけが正しいことだとわかって自信になった」「ファシリテーターが参加者の動きをよく見ながら自身の立ち位置をかえていた。私たちも集団の子どものお世話をする場面では、子どもの動きをみる立ち位置や、支援員同士のアイコンタクトをどうするか等、参考にできる」などといった、参加者のお仕事に活かせるワークショップになったことがわかりました。



もともと実施予定だった「行きたい場所をどうぞ」能登公演でしたが、2024年元日の能登半島地震のため開催が危ぶまれました。しかし、「こんな時だからこそ生徒に生の舞台をみせたい」という現地の先生方の声に応え、この「生活の中に演劇を」の一環として、また、青年劇場5月公演のロビーで緊急募金などお客様からの協力を得ることで、6月4日、石川県立能登高校・穴水高校2校合同での公演を実現することができました。

演劇公演「行きたい場所をどうぞ」

作／瀬戸山美咲 演出／大谷賢治郎
美術／池田ともゆき 照明／松浦みどり
音楽／青柳拓次 音響効果／坂口野花 衣裳／宮岡増枝
演出助手／矢野貴大 宣伝美術／柴崎涼葉
舞台監督／青木幹友 製作／白木匡子・久保田敬博
出演／奥原義之、船津基、武智香織、岡本有紀、原田真衣、
秋谷翔音、竹森琴美

< 作品について >

近未来のとある駅。待ち合わせ広場に設置された道案内用のAIロボット・夕風(ゆうなぎ)は、この街のことなら何でも知っている。ある日、夕風の前にこの街に引っ越してきたばかりの高校生・光莉(ひかり)が現れる。「行きたい場所をどうぞ!」と尋ねる夕風に光莉は、「ネラ」に行きたいと言う。しかし「ネラ」はデータにもなく、検索しても見つからない……。 「一緒に探しに行きましょう!」夕風は光莉の手を取り電車で飛び乗る。 女子高生とロボット、ふたりの“行きたい場所”探しの旅が始まった!

当初予定していた会場が地震被害のため使用できず、急きょ**能登高校の体育館で上演**することに。舞台の広さが足りないので、東京から機材を持ち込み、2間(約3.6m)の張り出し舞台を作りました。



舞台の準備が整い、体育館のフロア いっぱいの高校生が入場しました!



※秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場 劇団プロフィールはp17参照。

観劇した高校生の感想文から

≡ Thanks! ≡

本日は、道路状況の悪い中能登高校までお越しくださりありがとうございました。

今を生きる私たちにとって、身近な存在のAIに感情があったり自我を持っていたりするという考えがなく、とても興味深くおもしろい内容だと思い見ていて楽しかったです。

その中でも、光莉は私たちと同年代という設定で親とうまくいっていない所や、自分が何をしたいか分からない感じなどは共感できました。そのため、夕風や鈴などの真っ直ぐな言葉が私自身の心にも響くことがありました。人の意見に流されないことの大切さ、人それぞれ考え方や感じ方が違うことなどです。

今私は進路に向けて勉強したり、自分に必要なことを考えたりすることが多いので、人の意見に流されず、人それぞれ考え方や感じ方は違うので、自分の意思を大切にしていこうと思います。

また、おじいさん役の人が手を震わせていたり、AI役の人がまばたきをほとんどしていないなどの細かな設定もすごかったです。

(能登高校3年生)

「行きたい場所をどうぞ」の劇を鑑賞して、「選ぶ」ということは何かしっかりと考えたいと思いました。

「選ぶ」という言葉は「選べる」と考えた方がいいと思いました。私たち三年生は、これから自分の進路を選択していきます。十人いれば十通りの選択肢があります。大学に進学する人もいれば、専門学校や短大に進学する人、就職する人もいます。多種多様な選択肢の中で自分は「選ぶ」のではなく「選ばされる」のでもなく「選べる」自分の中で本当に行きたい、やりたい、挑戦したいことを選択していきます。時には、自分の下した選択を後悔することもあると思います。それでも、「選べる」という事実に感謝して生きていきたいです。

「選べる」ことの大切さやありがたさ。その中で生まれてくる責任。そのことをしっかりと考え、これから先の社会を担っていく若者として頑張っていきたいと思います。

(能登高校3年生)

日常と非日常

観劇体験は、日常から開放された特別な時間の共有といえます。しかし、災害という過酷な非日常に見舞われた高校生にとって、「自分の将来の可能性について考える」という、いわば日常に普通にあるべき時間を、今回の観劇体験を通して少しでも取り戻していただけたのであれば、たいへんうれしく思います。

終演後には生徒から出演者へ花束贈呈



生活の中に演劇をー新しい活動拠点形成事業ー

助成  文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(全国キャラバン))
独立行政法人日本芸術文化振興会

2025年1月 第1刷発行
2025年3月 第2刷発行

編集・発行 公益社団法人日本劇団協議会
〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎3F
TEL 03-5909-4600
email info@gekidankyo.or.jp

編集 株式会社スタッフステーション

デザイン 前村晴奈